

時事報

英船ノルマントン號の沈没
、船ノルマントン(Normanton

は夜横濱より神戸に向け航行の途中、紀州沖にて暗礁に乗り上り船体非常の損傷を受けて沈没し船客の日本人二十三名残らずと乗組員の中十三名は溺死を船長以下廿六名の者丈は端舟に取乗りて危難を免れる事の次第は前日の時事新報ふ記したる通りにて讀者の既知らるゝ處あらんが右は報道の當時の危難を免かれて神戸に來りたる該船員の實話ありとて兵庫ニユースに記載ある者にて其説ふ據を在日本人二十三名の溺死は全く船員外國人と船客日本人と言語不通にして危急と報道するの便を得ること能はざりしに起因し殊々日本人の無智無神經なる斯る場合に臨むながる危険の何物だるを解せず船長以下ダ必死となりて救助ふ盡力したるにも拘らず今にも沈没せんとする難破船の甲板よ取縋りて只管、端舟に乘移ることと拒みたりといへり左よりては餘りに不審ある話に乏く未だ以て我輩日本人ゆゑ我輩同胞に此凶事の始末を報するの口あく永遠等を満足せしむる足らず依て我輩は此容易ならざる出来事と關する正確ある事實の探索ふ種々從事中なれども今日までは未だ是をいふべき程の手掛りを得ず蓋し乗組の日本人廿三名は一人も残らず溺死したるがゆゑ我輩同胞に此凶事の始末を報するの口あく永遠遂に手掛りを得ずして止むが如じ遺憾あらんあとと掛念するに足るの理由などにあらざるなり

英國汽船ノルマントン(Normanton)號が去月二十一日
に夜横濱より神戸に向け航行の途中、紀州沖にて暗礁
に乘上し船体非常の損傷を受けて沈没し船客の日本人
二十三名残らずと乗組員の中十三名は溺死玄船長以下
廿六名の者丈は端舟に取乗りて危難を免る事の次
第は前日の時事新報ふ記したる通りにて讀者の既よ知
らるゝ處あらんが右は報道の當時の危難を免かれて神
戸に來りたる該船員の實話ありとて兵庫ニュースに記
載ある者にて其証ふ據を在日本人二十三名の溺死は
全く船員外國人と船客日本人と言語不通にして危急と
報道するの便を得ること能はざりしに起因し殊々日本
人の無智無神經なる斯る場合に臨とながむ危險の何物
たるを解せず船長以下皆必死となりて救助は盡力した
るにも拘らず今にも沈没せんとする難破船の甲板より取
縋りて只管、端舟に乘移ることを拒みたりといへり左
よりては餘りに不審ある話によく未だ以て我輩日本人
等を満足せしむる足らず依て我輩は此容易ならざる
出来事よりする正確ある事實の探索ふ種々從事中なれ
ども今日までは未だ是をいふべき程の手掛りを得ず
蓋し乘組の日本人廿三名は一人も残らず溺死したるが
ゆゑ我輩同胞に此凶事の始末を報するの口をく永遠
遂に手掛りを得ずして止むが如だ遺憾あらんあとと掛
念するに足るの理由などにあらざるなり

抑も右のノルマントンと號する英國汽船ハ順數一千五
百三十三噸船將ドレーラー(Drake)と呼び支那日本邊
と航海する者の由にて我内海を航行せるは今回にて僅
く三度目あるに水先人をも雇ひ入れず大膽にも不知索
内ある日本海の難所に進航し闇夜風雨に遇ふて忽ち其
十各二段のうち最後の一段の船底より水漏れる

の工風を求むる事にして船の危難を見て船長先づ船を去るが如きは法律上德義上共に決して許さざる所あり然るに今ノルマントン號の船長ドレーラ氏の所業の如く果して船長たるの責任を盡したる者あるや如何甚だ不審なり世人或と曰く難破船の場合に於て最後に船を守らざりし船長あれば爾後再び社會に齒すること能はず永劫人間の外に埋死するに例なれども此例ハ以對して禮を失し情を失ひ危難の場合に臨みて見殺しよしたりとて人間の道を迷ふの所爲と云ふべからず猫を殺し犬を糞らすが如凡類の所業は人道と以て總體そる限りよからざるなりと彼等の常ふ心に信する所既に斯の如し故に一旦事じ當りて其行爲の非常案外なるは決々と恠えしむ足らざるあり殊々外國船は日本沿海に旅客を運送するものは船客として日本人を乗載するにあらざして一種生類の貨物なりと心得て船艤に積み入るゝのと故ゆゑ其運賃も廉く取扱も乱暴無情にして船長の眼中船内ふ旅客あるを認むることなし偶々風雨等の變わきば生類の貨物の住居する艤口よを外より固封して其出入喧嘩船員の妨さを爲すを禁きん玄結局船の沈没する時に至るも艤口の封を開きて貨物は生命を助くるふと思はず悠悠自から端舟に移り浮袋を肩にして遠く消ぎ去るを蓋し今回ノルマントン號難破の如きも亦此一例たるに過ぎざるものあらんと我輩は未だ必ずしも或人の説に同意するにあらず亦必ずしも早く今日ふ當りてノルマントン號船長の罪を斷言するにもあらずといへども免に角に難破事件に關しては我輩十分に不審の念を懷さ亦十分に胸中不快の感覺あると覺るあり尙ほ此難破事件に關しては目下神戸に英國領事館を於て船長ドレーク氏以下と呼出しして吟味中あれば或は此裁判の我々日本人の疑を解くに足り廿三人の冤魂を骸宮に追慰しせるの機會と與ふる事もあらんかと痛かに大々屬望するのみ

乃至四メートル餘よて見るさへ度々玄き大河に臨み先づ西岸に橋礎と築きて第一滑車橋次々飛橋次々に連接橋及び架柱橋等の試験と施し孰れも好結果を得たりしが最後布舟は差々激流に堪へ難く見受けられ彌々鐵舟の輕便にして堅牢あるを知りたりと云ふ

○英國東洋艦隊　目下横濱港に碇泊する英國東洋艦隊五艘は悉皆對の灰鼠色にて一目にそきと見分る程なるが就中指揮艦オーデンヤス號には海軍中將ハミルトン組總員五百人にして艦内乗組員は大砲の數二十門乘組には日本支那の常整木と栽名各將校諸士官の室は各々雅美を盡し力先て東洋士人の好尚に合する模様を附せしは特々艦長の意と用ひたる處ありと云又前記の軍醫長フヰツレヤー氏と最も衛生の事に精しき人ふて艦内の注意も殊の外行届きたるに付我海軍々醫總監高木兼寛氏は頃日軍醫某と派遣して病室の肺裁なども詳細に見せたる尙軍醫長及び大軍醫マグドレン氏と始り該艦隊乗組の軍醫十數名を昨夜築地精養軒に招き饗應したりと聞けり

○麥酒製造の計畫　愛知縣下尾州知多郡は有名ある酒造家の多き地みて殆んど伊丹、灘にも劣らざる處あるが今實際の模様を聞くふ南部仙臺みて産せるものが強ち良馬といふにもばらず畢竟土地の季候と飼養法の其當と得るとに由るものにて秋田縣下に產するものと雖南都産の上等と同等の駿馬もあれば兔角其土地の人民は品位の如何を辨する能はずして之が爲南部地方より當と得るとに由るものにて秋田の有志者はは兼農したる上南部産と稱へては高直に賣捌くの習慣あり右等の故にて秋田に如何程の駿馬あるも世上一般に秋田産は駿馬は依然として秋田産の名と下ま来る二十年より年々同縣下の馬市場を設け大に販路を開うんだ計畫中のよ矣

○水戸大運動會の景況　去る三日の天長節に茨城縣水戸にて學校生徒の大運動會を催ふことは同地よりて電報よ見ぬが一昨四日の茨城日報よ其景況を記載したるに左の如矣

昨三日天長節には豫て記載せし如く諸學校聯合して秋季大運動會と常盤公園附屬地の櫻山に舉行せり今其景況を記せんに同日は前朝の秋雨より引た換へて一天麗らかに晴れ渡り各學校の生徒は東方の白むを待ち兼て續々と各小學校よ詰め掛けやがて朝旭の晴れ輝くと同時に各其校の旗章と翻へし隊伍を正して師範學校へと練り込む者總數凡と一千七百十五人と聞き師範學校にては豫て期せし如く各學校の隊伍を順次整列し午前七時より喇叭を以て號令を下モや各隊順序と以て整々同校より練り出したる其第一番には師範附屬小學第二番には上市小學第三番には常盤小學夫より第四第五の順に從ひ下市小學細谷小學上市西小學吉田小學見川小學川和田小學渡里・仙波・青柳・枝川・谷田堀の各小學校尙續て茨城中學校茨城師範學校の生徒は皆兵式の足並にて各教師は之が指導官となり諸役員等は其後不列去最後に輜重を備へたり其打裝は各校各肩付を以て隊を分ち師範學校中學校の如きは勿論其他各學校も重もふ洋服革靴にて整列せしが何を言ふよりも千七百十五人の多人數ゆゑ中には筒袖に袴を穿ち或は白の交結帶草鞋なぞにて甲斐なくしく扮裝たるもの打混たり殊ぶ目新しかりしほ上市下市等の女生徒よて上市校の女隊は頭

上に白の横掛と以
て萬葉の管を花
髪の髪にて女教師
泉町を經て櫻山に
形の廣地に四方へ
紅日の大旗章と打
程の旗章と建て其
太に書しるは安
右には數百は紅燈
數間を並べて豪
也出席されたりと
安田總裁磯貝藤山
部長其他各課長を
りて禮服のまゝ此
員銀行役員諸會社
類の商人は山上各
景況ありし扱て酒
と同山上ふ來觀る
ありしかば機と打
に成旗抬ひて是
徒手運動及び陸空
に成旗抬ひて是
と極めて競走し競
徒手運動及び陸空
脚競走第七球竿走
○東京の流行。(一)
れ玄とするには駆
如紀貧國には左足
す乍去人間は眞似
博十達がもの知り
とダーウヰンの牛
らしい說あれども
結び振り位ゐの事
左とば競ふく流
うく資本がりて流
鎧、古風よ結ふ
の打扮は何とな
の通りよやの字
ひきや佛蘭西形
一身に和佛英米
吉利風の東ね髪
のふ召縮緬三ツの
番杯の日本服よ
は藝術仲間にナ
人も見受けず大
髪れや嘲りと韓
頭も自ら大袈裟
髪蝶髪の張り下
出でざるあり道
似合と同様道理
抜酒麥飯にとろ
左れと近來は流
此東髪のみあれ
抜その東髪の結
道は從來家内髪
やら東髪と似て

從來工科大學へ工品及該原料ノ試験若ク
ハ鑑定ヲ甘頗スル向モ有之右等ハ自今當
大甚 亦善二衣日光

右ハ華族正五位子爵細川興貢所有ノ分今般世襲財產より被達候故障アフル者ハ

和英翻譯者一名至急雇入レタキニ付望ノモノハ速ニ本社へ申込アルベシ
賀濱廿八番館
ヘラルド新聞社

北國
廣
西
技
術
推
廣
站

○海外旅券貿易數 本年十月中旬於交附せし海外旅券は米國行男二十五人、英國行男一人、獨逸廳行男五人、露國行男一人、清國行男三人、人朝鮮國行男九人、女六人、其の他歐米各國行男三人にして合計五十三人(以上本年十一月五日官報)

載したるを見るに左の如左
昨三日天長節には様て記載せし如く諸學校聯合して秋
季大運動會と常盤公園附屬地の櫻山に舉行せり今其景
況を記せんに同日は前朝の秋雨より引た換へて一天曇ら
かに晴れ渡り各學校の生徒は東方の白むを待ち兼て續
々と各小學校より詰め掛けやがて朝旭の晴れ輝くと同時
に各學校の旗章を翻へし隊伍を正して師範學校へと練

ひきや和佛英米
一身に和佛英米
うふ見るは踏
の打拂は何とな
懸杯の日本服よ
は薦妓仲間にチ

判の我々日本人の疑惑を解くに足り廿三人の冤魂を嚴嵩に追慰せるの機会と與ふる事もほらんかと痛かに大々属望するのみ

田の名を聞いて之を駿馬とすに付き秋田の有志者は兼て之を遺憾ありとて協議の上將來飼養法に改良を加へ秋田産は駿馬は依然として秋田蘆の名と下ま来る二十一年より年々同縣下ふ馬市場を設け大に販路を開きんど
計書中のよき

○水戸大運動會の景況　去る三日の天長節に茨城縣水戸にて學校生徒の大運動會と催はしむることは同地によ

左をば競ふく流
限て餘り貴賤のア
來東髪は流行上
十の八九まで西
吉利風の東ね髪
のふ召縮緬三ツ

一例たるに過ぎざるものあらんと我輩は未だ必ずしも或人の説に同意するにあらず亦必ずしも早く今日ふ當りてノルマントン號船長の罪を斷言するにもあらずといへども免に角に難破事件に關しては我輩十分に不審の念を懷き亦十分に胸中不快の感覺なると覺るあり尙ほ此難破事件に關しては目下神戸に英國領事館より於て

ち良馬といふにもあらず畢竟土地の季候と飼養法の其當を得るとに由るものにて秋田縣下に產するものと雖南部産の上等と同等の駿馬もあれば兎角其土地の人民は品位の如何を辨する能はずして之が爲南部地方よりは同地より來りて廉價に買入れ我が土地より更に飼養したる上南部産と稱へては高直に賣捌くの習慣あり

博士達がもの知り合あら何でも異例とダメウキンの生らしい説あれど、結び振り位の所うへ資本がりく。

あらむして一種生類の貨物なりと心得て船艤に積み入るゝのと故よ其運賃も廉く取扱も乱暴無情にして船長の眼中船内ふ旅客あるを認むることあり偶々風雨等の變あきば生類の貨物の住居する艤口を外より固封して其出入喧嘩船員の妨かを爲すを禁玄結局船の沈没する時に至るも艤口の封を開きて貨物は生命を助くるみると思はず悠悠自から端舟に移り浮袋を肩にして遠く漕

○麥酒製造の計畫　愛知縣下尾州知多郡は有名ある酒造家の多き地、よて殆んど伊丹、灘にも劣らざる處ある。が將來西洋酒に壓倒せられんふとを慮りて今度勝間田縣知事が歸縣は上は右日本酒醸造家へ勧告の上傍ら麥酒の製造を爲さむべき計畫ありと聞く。

○秋田の馬市場　奥州産の馬といへば古來南部産、仙臺産と以て第一等と爲もことは世人の普く知る所ある。

脚競走第七球竿竹
全く終りまは午後
運動を極め観者喝采
ハ實に珍奇兒快哉
○東京の流行 (一)

對して禮を失し情を失ひ危難の場合に臨みて見殺しよ
したりとて人間の道よ遠ふの所爲と云ふべからず猫を
殺し犬を刺すが如た類の所業は人道と以て繩墨せる
の限りよあらざるなりと彼等の常ふ心に信する所既に
斯の如し故に一旦事よ當りて其行爲の非常案外なるは
決々く恠しむよ足らざるあり殊々外國船は日本沿海に

附せしは特々艦長の意と用ひたる處ありと云又前記の軍醫長フヰンシャー氏と最も衛生の事に精しき人ふて艦内の注意も殊の外行届きたるに付我海軍々醫總監高木兼寛氏は頃日軍醫某と派遣して病室の肺裁あとも詳細に見せ玄考尙軍醫長及び大軍醫マグドレン氏と始め該艦隊乗組の軍醫十數名を昨夜築地精養軒に招き製應

も出席されたりと同山上ふ來觀る
ありしかば機を呈
類の商人は山上名
景況ありし扱て渡
徒手運動及び陸空競
には旗拾ひて是
と極めて競走を施

の工風を求むる事にして船の危難を見て船長先づ船を去るが如きは法律上徳義上共に決して許さざる所あり然るに今ノルマントン號の船長ドレーク氏の所業の如ひ果して船長たるの責任を盡したる者あるや如何甚だ不審なり世人或と曰く難破船の場合に於て最後に船を去るべき者は船長あると世界の通法に於てこれを知らざる者多く又實際に於てもよく此法の行はれて偶々此法を守らざりし船長あれば爾後再び社會に齒すること能はず永劫人間の外に埋死するに例なれども此例ハ以テ西洋人の日本の事を處するの準則と爲らしむる能はず故等皆謂へらく西洋の歎義法律は東洋より適用すべし

乃至四メートル餘よて見るさへ度々玄き大河に臨み先づ西岸に橋礎と築きて第一滑車橋次々飛橋次々に連接橋及び架柱橋等の試験と施し孰れも好結果を得たりしが最後布舟は差々激流に堪へ難く見受けられ彌々鐵舟の輕便にして堅牢あるを知りたりと云ふ

○英國東洋艦隊　目下横濱港に碇泊する英國東洋艦隊五艘は悉皆對の灰鼠色にて一目にそぞと見分る程なるが就中指揮艦オーデシャス號には海軍中將ハミルトン軍醫長フヰッシャーの両氏も乗組み大砲の數二十門乘組總員五百人にして艦内接客の間には文人畫と描がき盤載には日本支那の常盤木と栽ゑ各將校諸士官の室は

上に白の横掛と以
て萬葉の管を花
髪の髪にて女教師
泉町を經て櫻山に
形の廣地に四方へ
紅日の大旗章と
程の旗章と建て其
太に書しるは安
右には數百社紅燈
觀聞と並べて豪華
安田總裁磯貝藤田
部長其他各課長本
りて禮服のまゝ此